

尾瀬ネットワーク通信

Vol. 17. No. 4 2015年2月



目 次

至仏山保全基本計画による………	1
群馬側活動 ………………	2
バス添乗解説 20 年目にあたって…	3
事務局だより ………………	4

至仏山保全基本計画による根本的施策の早期実施を ～保全費用の財源は入山料（環境保全協力金）で～

理事長 永島 繁

地球温暖化に伴う影響調査（気候変動⇒異常気象⇒集中豪雨⇒登山道の洗掘・浸食）の一環として行った至仏山南面登山道の3ヶ年の荒廃調査が2014年9月13日に終了した。最近の異常気象として2011年7月下旬の「新潟福島豪雨」では、尾瀬の累計雨量は390mmを超える記録的な豪雨となり、河川の氾濫、尾瀬ヶ原の水没、木道の流失や登山道の崩壊など、甚大な被害がでた。

至仏山保全基本計画

荒廃が深刻な至仏山の保全に関しては公益財団法人尾瀬保護財団が事務局となって、広範囲な課題に対して各分野の専門家による環境調査・分析・評価などの検討に多くの時間を費やしてきた。

至仏山保全基本計画（平成19年3月29日：尾瀬保護財団策定、

Web上に公開）には、大きく4分野において荒廃の対処方針を掲げている。①登山ルートの見直し（至仏山東面上部、小至仏山南面、オヤマ沢田代の3ヶ所の登山道付け替え）②荒廃地の修復③登山道の改善④適正利用のためのルール作りと管理（入山者の入り込み管理、携帯トイレなど）。これまで、比較的取り組み易い課題は実行に移してきた。例えば、残雪期の立ち入り禁止区域の設定、融雪期（GW明け～6月末日）の全面入山禁止、東面登山道の上り



【浸食が進む至仏山南面登山道】

専用化、既存木道・階段の改修、植生復元試験作業などが挙げられる。

科学的手法により荒廃の現状と原因を正確に把握検討することは大事であるが、登山ルートの見直しなど根本的な対策の実施が余りにも遅い。

最近は環境に優しく登山道の荒廃を防ぐ新しい工法も考案されているが、耐久性、安全性、コスト面などにも優れていることを期待したい。

保全費用は入山料で

昨今は厳しい財政事情（予算）から実施には種々の制約もあるが、登山道の荒廃対策は一刻の猶予も許されない状況にある。

各種世論調査や富士山保全協力金の事例、当会の鳩待峠でのアンケート調査からも我が国でも自然公園の利用時には自然保護に応分の負担をする意識が広まっ

てきている。

財政難のなか、山積する課題の解決には保全財源の継続的確保は極めて重要である。尾瀬も受益者負担の考えに基づく入山料（環境保全協力金）の徴収を真剣に検討すべきである。

これらの至仏山登山道荒廃問題の対策については、改めて群馬県や環境省等の関係機関に至仏山保全基本計画に基づく根本的な保全施策の早期実施を強く要望する。

■ 群馬側活動（平成 26 年度第 4 回）

—第 3 回至仏山南面登山道調査—

群馬側担当理事 清水博之

- 日時：2014/09/13 am7:00～pm14:30/ 快晴
- 場所：鳩待峠～至仏山南面登山道
- 概要：鳩待峠～至仏山までの南面登山道（4.5km）の荒廃状況実態調査は平成 24、25 年度に実施、今回で 3 回目となる。今回の調査を過去 2 ヶ年の調査と比較すると 25、26 年度に大幅に整備が実施されている。主な地点はオヤマ沢田代（標高 2030m）から小至仏山までの木道および階段状木道のリニューアルである。

しかしオヤマ沢水場付近をはじめ、ブナの樹林帯では平成 23 年の局地的豪雨の影響もあり、未だ登山道が大きく浸食のままとなっている。深さ、幅ともども 1m を超す大人の背丈を超えるほどえぐれた状態の箇所も散見される。

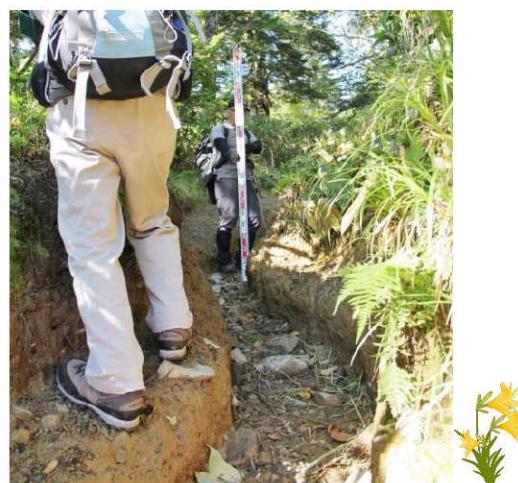
また一部整備された箇所であっても、その後の土砂流出の影響で埋めた杭が露出した箇所もある。また敷かれた碎石が大きく、断面の淵が刃物状となり、触れると衣類や足を切ってしまうことも危惧される。他にも登山道の浸食が烈しい箇所は数か所あるが、特に標高 1700～1900m 地点は荒廃、裸地化が著しく、早急な整備が望まれる。

今回も登山道のゴミ回収を併せて行った。布きれや紙くず、菓子の包み紙が主なものである。中には、はがれ落ちてしまった靴底の一部もあった。量的には山ノ鼻～尾瀬ヶ原ルートで拾うゴミ量よりもはるかに多く散在していた。

- 登山道調査参加者：飯沼、伊藤、大山、小鮎、清水、永島、（宮前）



正確な標高を割り出すために GPS 対応器材を活用



■崩壊箇所の状況【単位：cm】

標高 (m)	溝の深さ	溝の幅
1655	70	—
1690	120	—
1735	110	90
1750	170	190
1760	120	70～120
1780	90	90
1945	130	160
1990	140	160

■バス添乗解説 20年目にあたって

副理事長 磯部義孝

尾瀬の入山指導、特に福島側の活動と言えば、今ではバス添乗解説が定番となっていました。しかしこここまでに至る経緯は、諸先輩たちの並々ならぬ隠れたご努力やご苦労がたくさんありました。

■バス添乗の始まり

入山指導で沼山登山口や大江湿原、尾瀬沼周辺の定点に向かうためには必ずバスを利用します。当時は交通規制もなく沼山峠登山口まで乗り入れが可能であったため、観光バス、タクシー、マイカーが入り大混雑と渋滞の週末でした。そのため会津バスに乗車しても、今では20分で到着する御池～沼山口間を40分～50分、時には1時間余りもかかるあります。1時間近くのたっぷりある時間の中で、尾瀬のなりたち、自然保護の歴史、自然解説、尾瀬の現状などを乗客に伝えたことがバス添乗の始まりです。困ったことは解説乗車のたびに乗車券の購入を余儀なくされていたことです。費用も掛かるため、回数多くの乗車解説はなかなかできません。それでも定点指導のないとき、2回程度は実施していました。

■はじめての添乗解説

1995年（平成7年）6月3日、当時尾瀬の自然を守る会の指導員として私もバス添乗することになりました。トップバッター、二番手ともどもベテラン指導員に続き、ついに自分の番がやってきました。バスには満員の乗客、パニクっている時間もなく、満員になれば随時出発をしていきます。

私は事前に先輩二人より『バス添乗解説の内容を話してみなさい』と約20分位の解説テストを受けていました。緊張は大きいものがありましたがスムーズなスタートを切ることができました。

その後もバス乗務員さんから道々の地名等を教わり、解説内容を少しずつ修正しながら添乗解説を続けています。今では各指導員が努力を重ね、独自のキャラを持ち、楽しく添乗解説をしている指導員がたくさんいます。バス乗客の“ありがと

う”の言葉と拍手が次のバス添乗への励みになります。



1998年（平成10年）10月12日・読売新聞記事写真より

■宿での出会いと「瓢箪から駒」事件

入山指導時に会津バス職員さん達と偶然に宿泊所が一緒になった時でした。その頃は飲酒規制も厳しくなく、バス乗務員さん達も少しは飲んでいたようです。私たちもそれなりに宿で楽しんでいました。酒宴が進むにつれ、我が指導員の一人が酒の勢いで、こともあろうに会津バス田島営業所の所長にからみ、バス添乗解説時のバス料金を無料にして欲しいと息巻いたのが無料乗車化のきっかけです。その後まもなく会津バス本社より正式にご了解をいただき、車内解説時の無料乗車となり今日に至っています。まさに瓢箪から駒とはこのことかと、酒の力の凄さには今なお驚いています。ご尽力いただいた当時の小林所長さんをはじめ、歴代の所長さん、乗務員さんには感謝しております。

尾瀬の自然を守る会から尾瀬自然保護ネットワークへと引き継がれたバス添乗解説を通じ、ハイカーに多くの思い出を持ち帰っていただくためにも継続することが最も大切だと思います。自分も楽しみ、そしてハイカーも楽しくなるような自然解説がきっとあります。みんなで見つけましょう。



名解説の大先輩 佐藤信良指導員

事務局だより



□2015年（平成27年）通常総会開催予定

開催予定日：2015/04/11（土）

場所：大宮ソニックシティ 902号室

時間：13:10～17:00

多くの方のご来場をお待ちしています。事務局より改めて案内状（はがき）を送付いたします。

■2015年2月7日（土）、東京において全理事参加のもと第2回理事会が開かれ、平成27年度の活動計画案が議論されました。（以下、主な討議事項）

1. 入山指導

①群馬側（清水理事）②福島側（藤田理事）

2. 調査活動

①地球温暖化影響調査（初谷理事）

②外来植物調査（分布状況調査）（大山理事）

③チョウの調査（小畠理事）

④至仏山「携帯トイレ」アンケート調査

（小畠理事）

⑤笠ヶ岳植生定点調査（清水理事）

3. 自然観察会および特別研修会（各担当理事）

4. 尾瀬アカデミー「指導員養成講座」（事務局）

5. 尾瀬を守る会報告（大山理事）

6. 予算編成に係る概案（伊藤理事）

7. 通常総会議案（永島理事）

■2015年“尾瀬アカデミー”

（尾瀬自然保護指導員養成講座）の日程（案）

昨年度実施した2回の現地研修および福島、群馬のコース希望選択性は大変好評でした。募集要項は近日中にホームページに掲載予定です。保護活動と共にに行っていただく仲間がいらっしゃいましたら、会員の皆さんよりぜひお声をかけてください。

第1回現地研修（1泊2日）A/Bコース希望選択

Aコース（群馬会場）平成27年7月11～12日

Bコース（福島会場）平成27年7月18～19日

第2回現地研修（1泊2日）

A/B合同開催（尾瀬沼会場）

平成27年10月10～11日

昨年度はフィールド研修を終了し、新たに7名の尾瀬自然保護指導員の仲間ができました。今年も多くの仲間が増えることを楽しみにしています。



○2014年尾瀬入山者数 31万5400人

（前年比91.6%） 2015/01/16（環境省発表）

鳩待口： 17万6800人（56.1%）

沼山口： 7万1500人（22.7%）

大清水： 1万8500人（5.9%）

御池口： 1万4400人（4.6%）

編集後記

尾瀬という「奥山」に、更なる利便性を求めた政策が動き出す。一度は車両通行が止まったはずの大清水～一之瀬間に、今年からタクシーが本格運行をする。料金や運行台数の詳細を詰めている、との記事がある（上毛新聞/2015/01/17）。

尾瀬が増々「里山」化していくように見える。2013年報告には、東電小屋近くのヨシッポリ田代でイノシシの骨や毛皮が発見され、2014年では、背中アブリ田代でイノシシの生活痕の可能性が高い掘り返しがある、との調査報告がある。（尾瀬の自然保護 35号/36号）入山制限は人もシカもイノシシも。さもないと、次世代の人たちに「奥山」である尾瀬を残せなくなる。（大山）

NPO 法人

尾瀬自然保護ネットワーク

Vol.17 No.4 2015年02月20日

発行人：永島勲

編集担当：大山昌克

Web 担当：鈴木誠一

■本部事務所（事務局）

〒969-0404 福島県岩瀬郡鏡石町旭町19 円谷様方
電話/FAX0248-94-5003

■群馬支部

〒370-0001 高崎市中尾町762-16 清水様方
電話 027-361-8055

Web: <http://www.oze-net.com/>

お問い合わせ

info@oze-net.com<info@oze-net.com